

1. 評価結果概要表

作成日 2009年7月30日

【評価実施概要】

事業所番号	2670400155
法人名	医療法人健康会
事業所名	グループホームぬくもりの里
所在地 (電話番号)	〒600-8863 京都市下京区七条御所ノ内本町15 (電話)075-314-1211

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル海湊町83-1 ひと・まち交流館 京		
訪問調査日	7月28日	評価確定日	10月7日

【情報提供票より】(平成21年4月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成10年12月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	8人	常勤 2人, 非常勤 6人, 常勤換算 5.2人	

(2)建物概要

建物形態	併設	単独	新築	改築
建物構造	木造平屋造り			
	1階建て	0	1階	～ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,500円		

(4)利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	8名	男性	0名	女性	8名	
要介護1	0名	要介護2	1名			
要介護3	0名	要介護4	4名			
要介護5	3名	要支援2	0名			
年齢	平均	82.6歳	最低	73歳	最高	91歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人健康会京都南病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、JR西大路駅から徒歩約7分ほどの住宅街にある。四方は住宅に囲まれ、開設10年を経て地域の中に溶け込んでいる。法人は、京都市下京区で地元へ根ざした医療を手がける南病院で、京都市内で初めて建てられたグループホームである。建物は木がふんだんに使われ山小屋風で、温かみがある。ホームは家庭的な雰囲気が漂い、天井が高く開放的で、ゆったりとし、落ち着きを感じられる。手入れも行き届いている。廊下・浴室・居間など、バリアフリーとなっている。こうした環境のもとで利用者は、職員と一緒に日課のように、食事の準備、後片付け、裁縫などそれぞれの時間をすごされている。利用者の入所期間の長期化、加齢に伴う重度化に対して、限られた人員体制のもとではあるが、長年築いたなじみの関係を大切に、家庭的で、誠意をこめたケアがなされている。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議開催の定例化について、2ヶ月に1回の開催が実行され、改善が見られた。介護計画についても、新規利用者から改善に取り組まれている。利用者の要介護度の重度化が進行する中、個別プログラムの実行、地域交流など限られた人員のなかで改善を模索している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	昨年の外部評価を参考に、全職員が参加し約1ヶ月かけ自己評価を行った。今回の評価では主として改善できていないところ、至らないところを挙げ、改善への手掛かりを話し合った。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、ホームから現状及び定例報告を行い、地区代表、利用者および家族からは要望が出されている。以前からの懸案事項であった介護計画について、センター方式の導入を新規利用者から実施し始めた。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の入所期間が長期化すると共に、家族も高齢化や、多忙等を理由に、以前ほどの面会頻度がなくなってきている。ホームに面会に来られたとき、若しくは電話や時には運営推進会議等の場で家族の意見を聞かせていただくこともある。最近では、ボランティアへの要望について意見が出されている。ホームの運営、日常のケアに活かしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、行事には参加している。地域住民主催の西大路祭りや区民運動会にも参加している。近所の住民が毎月薄茶をたてに来てくれるなど、利用者もおつきあいから参加していて、具体的な住民との馴染みの関係が出来るなど、地域とのかかわりが深まってきている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の「地域を大切に」という理念をふまえ、このホームでは、自由に「個人の自由と尊厳を大切に、その人らしく生き生きとした生活ができるように努めます。利用者の気持ちやペースにそって、明るく楽しい毎日になるようにします。あたたかく、やさしく、ぬくもりのある生活を家族や地域の人たちと一緒に守っていきます。一人ひとりの尊厳を大切に寄り添ったケアをする。」という理念を、開設時に設け、重要事項説明書にも明記し、玄関先にも掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者はスタッフ会議の中で理念を日々の具体的なケアの中に反映させ、このホームの中で何をすべきか、何ができるかを個々のケースについて職員と何度も継続して話し合っている。職員もその話し合いを受けて、利用者との日々のケアの中でどうすればその人らしい個人に寄り添え、見守れるかをよく考えて支援してい		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、ホーム周辺の地域行事には参加している。老人会には入っていない。地域住民主催で5月の西大路祭りや区民運動会にも参加している。近所の一部の住民が毎月薄茶をたてにきてくれる。	○	地域に根ざした事業所として地域住民が気軽に立ち寄って交流できる場づくりが望まれる。近所の人々が気軽に訪問してきて、世代を越えたつきあいの機会がもてることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の受審にあたり、職員全員で評価項目について検討した。特に今回については、毎年の外部評価で指摘された項目で、スタッフ全員で到達できなかった部分、できていない点を中心に検討した。前回の評価の指摘事項の改善についてもその成果について話し合った。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、下京七三学区代表の女性会代表、地域包括支援センター職員、利用者、家族等が参加して、隔月ごとに開かれ記録されている。入居者の平均要介護度の重度化に伴い、家族、利用者からもホームの現状に理解を示しつつ、職員にはより一層の奮起を望む旨の意見も出ている。地域代表は事前には地域住民の意見を聞きホームの外の意見を持ち込んで、会議に反映させている。利用者の長期間の利用とそれに伴う家族との関係について、毎回真剣に討論がなされている。		

グループホームぬくもりの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	下京区役所介護保険課が窓口であるが、その部署の担当者とはほとんど交流はなく、運営推進会議にも参加が得られていない。	○	例えば区の担当者に運営推進会議の様子を伝える機会を持ち、行政関係と親密な関係を築き地域周辺の方々と認知症ケア教室、介護相談などを開催してはどうか。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には利用者の日常を知ってもらうために、毎月、ホームの行事、利用者の様子を職員の思いが込められた手書きの手紙を添え、写真とともに郵送することを続けている。浴衣姿の祭りの様子の写真は職員との親密な関わりが伺える内容である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事への招待なども含め、家族交流の機会を年3回開催している。運営懇談会のなかで家族交流会時の昼食用おかずを一緒に作る企画が好評だった旨の報告がある。利用期間が長期にわたる方もおられ、家族、身元保証人の面会も以前ほどの頻度ではないが、面会時には近況を伝え、家族からの意見、要望を汲み取り、職員等で何を支援すべきかについて真剣に話し合っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年間で正職員の退職、新規採用等の異動があったが、この度、夜間ケア体制を充実させた。昼間は職員が1名減ったが、職員と利用者の馴染みの関係が損なわれないように、日中のケアに工夫して影響が出ないようにし、十分な心のケアにも努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、常勤職員には研修計画があり、介護関連の研修が実施されている。非常勤職員には自己啓発を勧め、介護福祉士の資格取得にも法人内で支援し、系列の老健で試験対策の勉強会も開催している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都グループホーム協議会に加入し、ブロック会議に出ているが職員の体制の状況から、同業者との交流はすすんでいない。	○	京都市内のグループホーム及び姉妹関係にある法人のグループホーム及び小規模多機能事業所等を非常勤職員を含めて交流することが望まれる。ケアについてのヒント、アイデアが活かされることを期待する。

グループホームぬくもりの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新規利用にあたっては利用者本人及び家族等の希望に沿って、短時間の利用、昼食を試食していただくなど、ホームの日常を少しでも知ってもらって慣れていただくように個別に対応している。新たな利用者が来られたときは、既利用者との関係にも注意をはらいつつ、早く馴染んでいただけるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は認知症への理解を深めながらも、認知症という領域に捉われない、人としての尊重を持って接するように心がけている。声かけなども、混乱している時には寄り添って丁寧に行うなどの配慮をしている。利用者の生活歴も活かし、調理、裁縫、掃除、洗濯などの生活の知恵を学び、利用者相互の支えあいの日常が窺えた。利用者とのコミュニケーションの取り方の工夫としては、筆談やジェスチャー、声かけなどがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	相談記録や介護サービスの利用情報、医療情報、家族関係等の情報を収集し、また利用者との会話や行動等から希望や意向を把握している。ご家族や協力医療機関の医師・職員とも相談し、職員ミーティング等でホームでの具体的なケアについて検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族から意見を聞く機会が少ないので、面会時等を利用してケアマネ兼管理者が介護計画の改善について意見を聞き、介護計画に活かしている。介護計画は職員ミーティング、会議等で話し合われ作成されているが、基になる具体的な情報の記録が十分でない。	○	介護日誌、介護計画、ケース会議等の資料は利用者ごとに綴じ、PDCAサイクルで検証でき見やすいようにファイリングを整理することが求められる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のカンファレンス会議で全員のモニタリングをしているが、カンファレンス会議の記録には、介護計画の評価、職員の振り返り、変更、継続、中止の可否等が読み取れなかった。日々の介護日誌は時系列で日々の本人の様子及びケアが書かれているが、介護計画の項目に添ったものではない。	○	介護計画は3ヶ月ごとに見直し、カンファレンス会議の記録をとって、次回のプランにつなげられる工夫及びケアプランの項目に沿った日々の記録をとることが求められる。記録のみに形骸化しないよう、より一層の効果的な記録の浸透を期待したい

グループホームぬくもりの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
○					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	経営母体の京都南病院を始め、系列の老健の協力も得て、かかりつけ医への定期的な受診のために家族が同行できないときの付き添いを行っている。このほかにも利用者の希望により地域の社会資源を活用して支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事前に得たかかりつけ医の診断書や処方箋を入手し、現在患っている病名、既往病歴、症状経過、食事内容などの注意事項、ADLの状態など詳細な情報を把握している。日々の生活管理は、毎日のバイタルチェック、食事の様子、摂食・水分摂取状況、排泄状況、夜間睡眠状況、生活状況のチェックや観察及び記録を総合的に判断して、個々の心身状況が詳細に把握されている。身体の不調を見逃さないようにしている。また協力医療機関により必要に応じて診察が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約のときに、重要事項説明書に「基本的には看取りは行わないが、家族等が看取りを強く希望した場合は話し合いをもつ。話し合いの結果、看取りに関する合意がなされた場合、看取りの計画を作成し、実施する」という内容を説明しているが、その後の職員と家族とのやりとりにおいて、終末期ケアの再確認はなされていない。	○	入居者及び家族等に対しては契約時以外に、毎年1回定期的にターミナルに対する家族等の考えを聞いておくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄介助時の声かけについては、利用者本人に失礼なきようにさりげなく対応している。職員の接遇方法、言葉遣いについてもミーティング等で随時、話し合って不適切な処遇がないように改善している。個人記録のファイルについては、個人情報保護規程に照らして保管・管理ができています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あらかじめ決まった日課はなく、各利用者の意思にしたがって、自由な時間を過ごすことができ、利用者個々の能力や状態に合わせた支援に努めている。また事前及び入所後の利用者の生活状況や要望、嗜好を把握した上で快適に過ごせるよう心掛けている。洗濯にこだわる方、おしゃべりに興ずる方、料理にいそむむ方が思い思いの生活を楽しまれている。		

グループホームぬくもりの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	担当職員が利用者の嗜好を十分把握したうえで、1週間の献立をたて、食材はスーパーから配達してもらい不足分は、利用者との外出時などで買いに行っている。食べたいものや調理の希望を活かし、衛生面に配慮しながら盛り付けや配膳、テーブル拭きなどの準備、下膳や後片付け等も利用者が職員と協働して行っている。食事介助が必要な方には職員が最初から全面介助し、摂取できるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は原則として午後が多いが、利用者の意思や体調等によって、他の時間帯においても、柔軟に対応している。マンツーマンの同性介助である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームでの生活では、利用者の主体性の配慮を念頭に置き、一人ひとりのできることできないこと、好きなこと嫌いなこと等の情報を職員間で共有することに努めたうえで各自の体力に合わせ、調理の手伝い、後片付け、洗濯物干し、洗濯物たたみ、花の水やり、外掃き等をお願いしている。利用者、職員が一丸となってホーム内の清掃には特に力をいれており、開設10年を経ても、ホームの内外とも手入れが行き届いている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候や利用者の体調等も考慮しながら、利用者や相談しつつレクリエーション等を取り入れている。体力面も考慮して毎日のお出かけは、ホームの回りを散歩したり、買い物をする程度だが、地域の方々と会話することにより交流促進に努めている。時には桜の花見、紅葉見物、ドライブにも出かけ季節を肌で感じる機		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関扉、非常口、勝手口などから日中は自由に入出りできる。玄関ドアにはセンサーチャイム、フラッシュサインがつけられていて出入りが確認できる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防に関しては消防計画があり、防火管理者、消火器、感知器が設置されている。非常災害用の物品がリスト化されている。避難訓練は年2回、夜間想定もふくめておこなっており、内1回は地域住民が参加している。非常時の緊急用備蓄も乾パン、水等が備えられていて、更なる充実が期待される。		

グループホームぬくもりの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は5段階で記録されており、1日1200カロリー、水分について1日1000ccを目標にマニュアルを作成し、こまめに水分摂取を促し、必ず職員が確認するようにしている。栄養バランスとカロリー値については献立を立てる時に前後の献立も参照しながらバランスのとれた栄養摂取に配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂にはテーブルと椅子が置かれ、窓辺は出窓となっている。窓は終日、日当たりが良い。2ヶ所の談話コーナーにはソファとテーブルが置かれており、入居者の導線を考えてテーブル、椅子等が上手に配置されている。その周囲を見渡すと心が和む。ログハウス風で天井が高く開放的である。利用者や職員の憩いの場や団欒の場として活用されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全室にエアコンが完備されており、天井も高く開放的で、整理整頓が行き届いている。冷暖房については利用者の体感温度に応じて使用し、適宜調整している。居室内はホームで提供するベッド、家具の他に馴染みの物品を持ち込んでいる利用者もいる。		